

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット認証申請書

2021年10月31日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

Jブルークレジット制度実施要領の規定に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	<input type="checkbox"/> 新規申請 <input checked="" type="checkbox"/> 登録番号 (202101JBCA00001)
プロジェクトの名称	多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動
プロジェクト実施者・場所	【実施者】 横浜市漁業協同組合 特定非営利活動法人 海辺づくり研究会 金沢八景-東京湾アマモ場再生会議 【場所】 金沢区鳥浜町地先 (横浜ベークサイドマリーナ横)

プロジェクト概要	<p>アマモ</p> <p>対象海域では 2005 年頃より、金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、海辺つくり研究会等が三井アウトレットパーク、横浜ベイサイドマリーナの協力を得てアマモ場再生活動を実施していたが中々定着しなかった。</p> <p>そのため、2013 年から 4 年間は、東京湾 UMI プロジェクトによって民間企業と協働したアマモ場再生活動を実施した。この活動は、横浜市漁業協同組合が水産庁の水産多面的機能発揮対策交付金を活用した同海域でのアマモ場再生活動と連携したもので、活動の原資は、金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、海辺つくり研究会の活動資金（一般会計と助成金）と、UMI プロジェクト参加企業の資機材に対する実費負担等である。2017 年 3 月にはアマモ場が同海域一面に拡大するとともに、その後のモニタリング、再生活動の実施されている。2021 年 8 月に衰退期にあるものの、例年通りのアマモ場が維持されていることがモニタリング活動・航空写真等により確認されている。</p> <p>アカモク</p> <p>関東地方整備局が平成 22 年度から 3 年間「横浜港海域環境改善監視等業務」において対象海域での藻場造成実験を実施した。現在対象海域で繁茂しているアカモクについては、実証実験以前にこの海域でアカモクは確認されておらず（漁業者談）、この取り組みの中で設置した種苗が拡散したものと判断できる。</p> <p>また、令和 3 年度現在、横浜市漁業協同組合がこのアカモクを水揚げしているが、持続可能な生産を目指して間引き採取、種苗供給などの取組を行っており、2021 年 1 月に広範な生息域が確認されている。</p> <p>【使用船舶等】</p> <p>曳航船（11 トン 630PS）延べ航行距離約 14.6km（延べ稼働約 2 時間）</p> <p>曳航船（19 トン 630PS）延べ航行距離約 14.6km（延べ稼働約 2 時間）</p> <p>調査船（0.8 トン 40PS）2 隻延べ航行距離約 1.2km（延べ稼働約 45 分）</p>
プロジェクト実施期間	2016 年 3 月 18 日～現在
クレジットの認証申請対象期間	2020 年 9 月 1 日～2021 年 8 月 31 日
方法論	<p>①活動量算定方法※</p> <p>【対象とする生態系】</p> <p>アマモ場、アカモク場</p> <p>※別添 1 のとおり</p>

(第1号様式)

	<p>②吸収係数</p>	<p>1. アマモ 桑江ら(2019)の表-4に記載されているアマモ場の吸収係数(4.9 t-CO₂/ha/年)を用いる。 2. アカモク 桑江ら(2019)の表-4に記載されているガラモ場の吸収係数(2.7 t-CO₂/ha/年)を用いる。</p>
	<p>③吸収量算定方法</p>	<p>【算定した式】 活動量 × 吸収係数 【算定結果(吸収量)】 1. アマモ場 7.25ha × 4.9 t-CO₂/ha/年 = 35.5t-CO₂ 2. アカモク場 0.61ha × 2.7 t-CO₂/ha/年 = 1.6t-CO₂</p>
<p>ベースラインの設定方法・妥当性とその量</p>	<p>対象としている領域は、もともとアマモ・アカモクの繁茂する領域ではなく、アマモは東京湾 UMI プロジェクトにより新たに創出され、アカモクは横浜市漁業協同組合による間引き採取、種苗供給などの取組みにより繁茂領域が出現し、その後それぞれ維持されている状況にある。そのため、ベースラインをいずれも0と設定することとした。</p>	
<p>クレジット認証対象の吸収量</p>	<p>1. アマモ場 35.5t - 0t = 35.5t-CO₂ 2. アカモク場 1.6t - 0t = 1.6t-CO₂</p>	